

台湾 新型コロナウイルス感染ゼロの風景

台湾 新型コロナウイルス感染ゼロの風景。

「警察です。誰かいますか？」部屋は真っ暗である。時計を見ると朝の五時半。何が起きたのか。朦朧としてわからない。突然の訪問者に事態が飲み込めない。「中にいるなら返事をしなさい!」「ハイ。」「警察です。部屋にいましたか?」「いました。なんですか?」「なぜスマホ電源を切りましたか。」「あ、充電を。」「GPS 信号が消失したため、外出していないか、マンション監視カメラと実際に部屋にいるかの確認です。」「すいません、部屋にずっといました。」「二度と電源を切らないように!」

台湾に来た外国人労働者が、隔離宿泊施設の部屋から隣の友人の部屋に行った。監視カメラを見た従業員が警察に通報し10 万元(38 万日本円)の罰金刑に処された。ちなみに建物の外に出たことが発覚した場合は、100 万元(380 万日本円)の罰金。すでに何人もが処罰を受けている。冒頭の話は、私の友人の恐怖体験である。私も自宅隔離をしたが台湾警察外事課の管理下に置かれ、担当となったテリーと名乗る警官から、朝でも夜中でもランダムに所在確認の電話がきた。台湾人らしくフランクであったが、二週間におよぶ自己隔離はこたえた。これが感染ゼロのための監視社会である。

隔離が明け、クリスマスの街に出ると多くの人と肩が触れた。レストランに入ればいつもどおり大きな声で食べる人々、クリパに出れば舞台上で高齢な社長もご婦人もカラオケ大会。例年と全く変わらない光景が繰り広げられた。台湾は、国内感染者がゼロであるということを実感した。全く普通であった。自由、活発、そのままであった。

私が出社すると隣の事務所が空っぽである。昨日は普通に旅行会社を営業をしていたはずだ。「隣はどうしたの。昨日いたよね。」「社長、お隣さんは昨夜夜逃げしたそうです。」「これで五軒目か。このフロアに10 社いた会社が半分になってしまった。うちも三月から十月まで一枚も領収書を発行していない。収入ゼロ。ついに私の役員報酬も返上したよ。幸い北海道東川町と委託契約をしているから倒産することはないけれど…。とにかくみんなでチャレンジしよう。」

旅行業、都市型ホテル、DFS、著名レストラン、ガイド・通訳。鎖国している台湾にとってインバウンドに頼っていた業界は壊滅的だ。アウトバウンドも国外旅行、留学関係は悲惨である。一方、半導体、国外物流、ペリカン便やFoodPanda等の宅配、国内旅行関連は絶好調。意外なのは、旅客がダメな空運が貨物部門による黒字化。航空機座席に貨物を満載して運行している。また株価も日々高値を更新しており、私の台湾保有株式資産は半年間で五倍になった。地獄と天国、見事なほど二極化を体験している。エレベーターでも食堂でも、女子大生までもがスマホで株価を見ている。日本のバブルのときとそっくりである。みな目が

台湾 新型コロナウイルス感染ゼロの風景

笑っている。私の心はざわつくばかり。

感染者ゼロの活況な台湾ビジネスは、内需とハイテク、機械、輸出、オンライン事業。日本食品、酒、薬品、雑貨、そして日本旅行への渴望は、私が日本から台湾に戻ったときの荷物重量が 100kg に達したことが物語る。また 1 月 19 日に台北で新規開業したドン・キホーテ 1 号店は、開店前に 500 人を超える行列となった。日本に飢えている。弊社では北海道同庁と台湾教育部との高校生オンライン交流、日本語学校との日本語オンラインビジネスを開始した。現実を直視し逃げずに、新しい時代、新しいビジネスの創造、経路開拓をすれば、またとないブルーオーシャンが広がっている。リスクとしては、鎖国続行による精神的な倦怠疲労。ロータリークラブの台湾人に聞くと 2023 年末まで現状想定し計画策定をするとのこと。また米国政権交代による中国による台湾東沙島侵略も心配だ。みなさまも苦しい時でしょうが、台湾ビジネスにもチャレンジしていただきたいと思います。台湾は 2 月 12 日が春節(旧正月)。忘年会シーズンの開始です。新年快樂!

以上、書いたところで台湾国内感染事例が発表された。感染者、濃厚接触者が次々と出現。春節イベント中止のニュースが入ってきた。ざわつきはおさまらないが、厳しい統制と知恵で乗り越えることを信じます。加油!!

新高通顧問股份有限公司
董事長 富田 恭敏

参考 URL

ドン・キホーテ

<https://www.facebook.com/DonDonDonkiTW/>

<https://japan.cna.com.tw/news/aeco/202101190003.aspx>

